

活動名	団体名 広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム 地 域 広島県広島市 代 表 者 広島市立大学 国際学部 准教授 金 泰旭 支援金額 25万円
活動概要	
<p>都市ギャラリープロジェクトは「都市の中に芸術空間を創出し、街に活気を与える」ことをコンセプトとする地域活性化型プロジェクトである。広島駅前の工事現場仮囲いに作品展示した第1弾に続き、第2弾となる今回は広島市中心部の地下街シャレオに作品を展示了。作品は日本と韓国的小学生に制作してもらった。作品を制作した日韓の小学生による国際交流行事も企画・実施した。作品展示、国際交流行事とともに多くの人々から支持・支援を得ることができた。また、これまでの活動をまとめた書籍も制作し、関係各所や全国の大学付属図書館に配布・寄贈した。本プロジェクトの活動を多くの人々に知ってもらい、各地での地域活性事業の手助けになればと願っている。</p>	

◆実施時期

作品展示:2010年2月21日～2010年5月31日、紙屋町シャレオ

国際交流行事:2010年5月19日、広島市立幟町小学校

◆参加人数

チーム構成員:21名

幟町小学校関係者(児童含む):約130名

韓国・啓星初等学校関係者(児童含む):約130名

国際交流行事出席者・関係者:約40名

参加総人員 約321名



第2弾「七色の奇跡—つながる未来—」広島市中区紙屋町シャレオ東広場周辺にて



日韓小学生による国際交流行事 広島市立幟町小学校にて

◆実施に伴う効果

・第2弾「七色の軌跡－つながる未来－」

作品前を通る人々にインタビューしたところ、好印象な反応が多く、特に子供達の方には「街の中に芸術作品があると気持ちが和むし、良い」など好評を得ることができた。作品展示を通じて地域を盛り上げることができた。また、作品制作を通じて日韓小学生の国際交流にも貢献できた。

・日韓小学生による国際交流行事

日韓の小学生が顔を合わせて直接的に交流することで、作品制作時以上により実りの多い国際交流を実現できた。また、韓国小学生には広島観光もしてもらい、本プロジェクトの目的である都市活性化を観光の面から達成できた。副次的な効果として、支援いただいた団体の方々を招待することで、普段では関わり合いのない業種間での交流も図れた。その他、全体の活動を通して、学生の社会活動を促進し社会についての学習機会を創出できた。

◆苦労した点

- ・業務の実行主体が学生であるため授業やアルバイトなど時間的制約が多く、常に人員不足の状態で活動せざるを得なかった。卒業や就職活動による離脱も大きな問題であった。
- ・作品展示場所選定の際、公共空間に展示することが前提であるため、様々な制約が作品の内容に影響を与え、作品内容の決定に多くの時間を費やすことになった。例えば、展示の際の道路使用許可や可燃素材の使用不可、レンガ地の壁面への接着方法など。予算を圧迫する原因ともなった。
- ・韓国の小学生の広島招致では、宿泊先の確保や滞在時のタイムスケジュールなど行事自体とは直接的に関係ない部分の調整にも大変な労力を必要とした。この時期は特に人員不足が顕著であったため、行事内容の設定も含め最も苦労した時期であった。
- ・予算確保は、プロジェクト発足当時からの問題である。大学からの研究資金だけでは到底まかないきれず企業協賛を中心に資金調達を図ったが、不況も相まって協力していただけない企業も多くあった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・人員不足の解消と予算の安定的確保が最大の課題である。現在の組織体制では各人にかかる負担が大きいため、プロジェクト参加によって大学の単位を取得できるようにするといったような大学全体を挙げた体制づくりが必要であると考える。
- ・平成23年度は3ヵ年計画の最終年であるため総まとめの年となる。来年度計画では、芸術分野に携わる方々の交流から芸術による地域活性化の可能性を探っていく予定である。また、都市ギャラリープロジェクトをアクションリサーチの観点から学術的に分析・評価していく。

◆活動を終えての感想・意見等

学生を含め、プロジェクトメンバー全員のたゆまぬ努力がなければ実現することができなかつた大きなプロジェクトだった。企業や行政、教育機関、財団など多くの方々からの支えも非常に大きな力となった。この場を借りて感謝の意を表したい。

今後は、このプロジェクトから得た成果を学術的にまとめ、学会などで発表する予定である。また上述した書籍(書籍名:アートプロジェクトにおける起業家チームの役割－都市ギャラリープロジェクトを通じた広島地域の活性化－)を通じて多くに人々に地域活性化について考えてもらえばと願っている。